

学長のコラム

学生生活実態調査で知り得たこと

4年に一度実施することとしている表記アンケートを学生委員会が実施し、各学科・専攻の学年別の結果を報告いただいた。学科・専攻ごとにご活用頂きたい。回答率は、全学平均で79.3%（1210/1524）で、比較的高く、信頼性があると考えられる。以下に、気になる項目について、全学的な数値としてまとめてみた。教職員の皆さんに於かれては、学生の実態理解の参考にさせていただきたい。

学費の支払いについては、家からの仕送りだけで賄う学生は3割で、7割の人は何らかの形でアルバイトによる費用を加えている。今年のアルバイト経験について、「経験なし」と「長期休みのみ」の学生がそれぞれ、約1割で、約7割の学生が授業期間中にアルバイトを実施している。アルバイトの理由は、「生活費」が約3割、「遊興費」が約5割であり、職種は、「コンビニ等の店員」や「飲食店の店員」が約7割である。1週間当たりのアルバイト時間は、「4～8時間」が3割強で最も多いが、「30時間以上」の学生も2%（30人程度に相当）存在する。また、アルバイト終了時刻は、「午後10時まで」が約5割で最も多いが「午前0時より遅い」学生が約3割も存在する。アルバイト収入の用途は、「娯楽嗜好費」が4割と一番多く、「食費」が2位で2割である。学生生活とアルバイトの関係については、6割の学生が「支障ない」と考えているが、約4割の学生は、「勉強時間、趣味・娯楽の時間、睡眠時間などを削減」している。現在の住所は、「自宅」が約6割、「アパートマンション」が約4割である。家賃は、「4万円台」が約3割と一番多く、「7万円以上」も6.4%（約40人に相当）存在する。通学方法は、「電車」が最も多く約6割、「自家用車」が約2割、「自転車・バイク」が15.9%である。通学距離（片道）は、「10km未満」が約6割、「10km以上」が約4割であり、通学時間（片道）は、「30分未満」と「30分～1時間未満」がそれぞれ約4割、「1時間以上」が約2割である。睡眠時間（平日）は、5～6時間未満が約4割と一番多く、5時間未満が約2割であるので、6時間未満が約6割であり、総じて平日の睡眠時間が少ない。また、休日は平日の睡眠不足を解消するのに、無くてはならない状況である。レストランの利用については、「利用しない」学生が約半数で、利用しない理由は、「弁当持参」が約4割、「学内コンビニ利用」が2割、「値段が高い」と「メニューが少ない」を合わせると1割である。利用したいと思う値段は、「350円以下」が約8割である。食生活の状態について、「良い」と考える学生は16%、「何らかの不備がある」と考える学生は84%に上る。喫煙については、「吸っている」と答えた学生が、2.1%（32名に相当）存在する。これらから浮き上がる学生像をまとめると以下のようである。約7割の人が、（遊興費を含む）生活費に奨学金やアルバイト収入が必要で、授業期間中アルバイトをしている。そのため、バイトの日は午後10時より遅く帰宅する人が8割程度存在し、平日の睡眠時間が6時間未満の学生が約6割という数値の一因となっている。また、ほとんどの学生（84%）が食生活に偏りや不備を感じている。大学としてできることは何かを与えてくれた学生諸君に感謝します。

今回は、「学長のコラム」の最終回となる。ご愛読ありがとうございました。



3月・4月の主な行事予定

3/22 (金)	看護師、保健師、助産師合格発表日
3/25 (月)	認定看護師教育課程・脳卒中リハビリテーション看護修了式 臨床検査技師、理学、作業療法士合格発表日
3/26 (火)	言語聴覚士合格発表日
3/27 (水)	FDセミナー・修学ポートフォリオ説明会
3/29 (金)	辞令交付式（退職、任期・期間満了）
4/ 1 (月)	新任者オリエンテーション、辞令交付式
4/ 2 (火)	入学式、実習認定式（看3年）
4/ 3 (水)	新入生オリエンテーション（～4/8） レストラン営業開始
4/ 4 (木)	前期ガイダンス開始（2・3・4年次）（～4/6）
4/ 8 (月)	前期授業開始（助産）、 新入生歓迎会（メルパルク熊本）
4/ 9 (火)	前期授業開始（保健科学部）
4/12 (金)	杏友会歓送迎会（熊本ホテルキャッスル）
4/20 (土)	学部4年次保護者会

※4/27（土）～5/5（日）はお休みです。5/6（月）は5/5（日）の振り替え休日ですが、出勤日（有給休暇促進日）です。

第3回西里校区健康ウォーキング大会

去る3月3日（日）、西里校区健康づくり委員会主催による「第3回西里校区健康ウォーキング大会」が行われました。本学地域連携事業スタッフとして看護学科学生12人と教員4人が血圧測定や救護・レクリエーションに協力した他、総務課からの呼びかけで、教職員とご家族11名も参加されました。あいにく当日は、小雨模様で「のんびりコース（約3km）」ウォーキングと旧アリーナでのレクリエーションのみに変更されましたが、約100名の参加者のみなさんからは、「気持ちよく歩きました」「楽しい時間を過ごすことができました」等の声が聞かれました。例年、住民主体で開催される本大会には「西里愛」があふれていて、あたたかい気持ちになります。教職員の皆さんも、ぜひ来年は緑豊かな春の西里を歩いてみませんか？

（文責：看護学科 戸渡洋子）



卒業式・修了式

3月8日(金)に新アリーナで卒業式・修了式が行われました。医学検査学科116名、看護学科122名、理学療法専攻48名、生活機能療法専攻45名、言語聴覚専攻46名、大学院保健科学研究科7名、助産別科21名の総計405名がこの日を迎えました。卒業生・修了生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。(文責：企画課)



-Lovers- 平成30年度学生ボランティア団体助成事業表彰を受ける！！

寒さ厳しい冬の京都で、平成31年2月8日(金)、本学のボランティアサークル「Lovers」が平成30年度「学生ボランティア団体助成事業」の表彰式に出席しました。この事業は、全国の大学で医療・福祉・地域交流・国際交流・災害支援・環境・教育等様々な分野で活動するボランティア団体に10万円の助成金が贈られるものです。平成30年度は応募多数の中から全国54大学のボランティア団体が選ばれました。

「Lovers」は「愛を考え、愛を感じとる」を理念に、難病患者さんとその家族の支援、難病や脳腫瘍、心臓病、運動・発達障害等の病気を抱える子どもたちの支援、野田かつひこ氏と共に「命のコンサート」を一緒に行っています。約80人のメンバーを代表して表彰式に参加してくれたのは、医学検査学科の3人(谷口江里菜、川崎彩加、谷山紫乃)です。助成金でコンサートの楽器や譜面台を購入する予定です。3人が表彰式に出席できるよう、配慮して下さった大学事務局の方々に感謝致します。

(文責：看護学科 中村京子)



災害対策訓練

3月11日(月)に、国立熊本医療センター、JR九州、熊本市北消防署と本学合同による「災害医療チームとの連携に関する研修・訓練」が植木駅で開催されました。脱線事故による負傷者が出たという想定のもと、実際の車両を使用し初動対応からトリアージ、防災ヘリも出動する本格的な訓練となりました。被救難者役として参加した学生たちからは「授業で学んだことを実際にみることで勉強になった」「将来自分が支援する立場としてイメージがわいた」などの感想がありました。東日本大震災から8年が経過した当日ということもあり、参加者一同災害対応について気持ちを新たに粛々と訓練に臨みました。

(文責：地域包括連携医療教育研究センター)



ちいき楽暮講演会報告～健康と笑いの夕べ～

人生楽ありや苦もあるさ♪～語る喜び、聞く楽しみ～

2月26日(火)、キャンパステラスにおいて日本聞き書き学校教務主任(校長：柳田邦男先生)にして聞き書きの名手、作家でもある小田豊二先生と金沢大学名誉教授、聞き書き講師天野良平先生をお招きし、「聞き書き」寄席と実践者向けフォローアップ講座を行いました。両先生の来学は4度目になります。「聞き書き」とは高齢者などに話を聞かせていただいて、それをその方の話し言葉で書いて世界で一冊の本にして後世に残す活動です。

今回、小田先生には作家三遊亭逢豊としてご自身の「暗い少年時代」に培った「聞く」という行為がその後の人生にどのように役立ったかということと昭和の歌あり、笑いあり、涙ありで話されました。参加された高齢者に対して若者にどんどん語ってほしい、そのことが若者の人生も豊かになるというエールもありました。

楽しい寄席の後は、天野先生に熊本で聞き書きの活動を行なう実践者の人たちに対して、フォローアップ講座を行なっていただきました。これからも地域の人たちとともに「聞き書き」を行なっていきたいと思います。おあとがよろしいようで。(文責：地域包括連携医療教育研究センター)



ちいき楽暮活動報告会

3月1日(金)にちいき楽暮の活動報告会を開催しました。第1部では安部眞一センター長による活動報告、第2部では医療経済研究機構の西村周三氏「人生100年時代の社会保障を考える～高齢者と若者の共生を目指して～」と題してご講演をいただきました。第3部では、地域で活躍されている「生きる達人」の方々和西村先生をまじえた「達人会議」の中で、地域共生社会において今後私達が考えていくべき事柄について、本学の卒業生等若い世代を含め活発なディスカッションが行われました。(文責：地域包括連携医療教育研究センター)



小菌先生の最終講義が行われました。

3月7日(木)言語聴覚専攻 小菌真知子教授の最終講義が行われました。学生も多数参加した講義では、「言語聴覚学の歴史と展望」ということで、言語聴覚療法の歴史に始まり、先生の実体験を踏まえたお話もしていただきました。

最後に今年大学院を修了される言語聴覚専攻の畑添先生から花束贈呈が行われ、心温まる最終講義となりました。小菌先生ありがとうございました。

(文責：企画課)

